

(1) 身延山学園「新図書館」竣工近し！

宗祖七百遠忌の記念事業の悼尾を飾る「身延山短期大学々園・新図書館」の竣工が七月上旬に予定されている。藍色が霊山に冴える時、学園にとっても世紀の大建築が竣工することはこの上ない慶事であります。

しかし、学園の経営母体である身延山久遠寺にあつては、棲神閣祖師堂の大改修が目前に計画されていることを併せ鑑みると、莫大な建設資金を要する図書館の建築は、まさに身延山御当局の英断、法器養成百年の大計なくしては、新図書館の偉容をみることは出来なかつたであります。

岩間日勇法主宛下（昨十二月管長職就任）には、日蓮宗新聞の元日号に次の様な所感を寄せられています。

「七百遠忌には大本堂建立を主たる記念事業としつつも新納牌堂、清風寮、法喜寮、水鳴楼等の新築を完成したばかりでなく、参道、駐車場の整備を完了し、日静・日雄・日滋・日康歴代上人のご苦勞は想像を絶するものがありました。が、お蔭で戦後の疲弊から完全に立ち直り、面目をも一新しました。

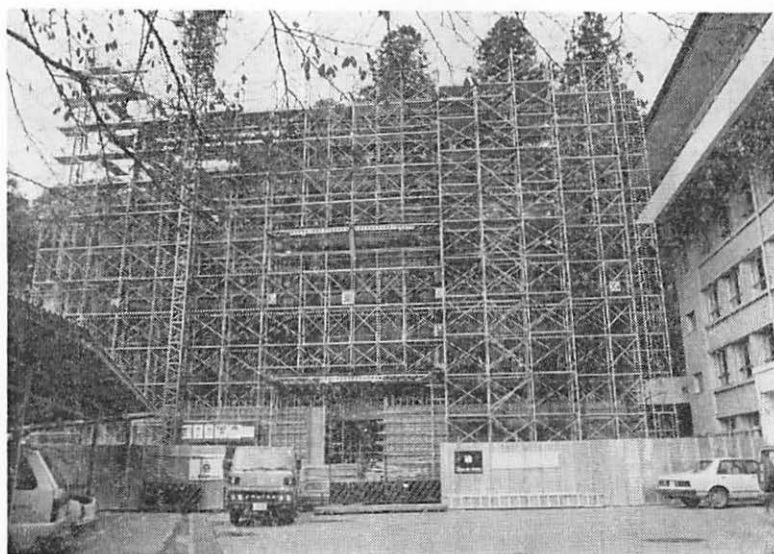
そこで学園として多年の要望であつた図書館建設に着手することとなり、九月から着工し、工事進行中で、今年七月には完成の予定であります。この図書館に日蓮聖人に關する資料、書類をすべて集め、學者の研究に供すると共に、後に続く人材の養成に役立たせたいと念じています。教育の効果は二十年、三十年の後に現れるものですが、法器の育英、人材の養成は、だから今行わねばなりません」（一月一日元旦号より）

また身延山総務・学園理事長の望月一靖宛下にも、みのぶ誌上の年頭挨拶のなかで、特に図書館の建設にも言及されて、次の様に御挨拶されています。

（昭和六十二年）

「一月二十三日には図書館の地鎮祭が行われ、現在は二階のコンクリートの打ち込みも終わり、工事は順調に進んでおります。……この図書館の完成は身延山にとっては大事なことです。この図書館は多くの若者に本當の勉強をしてもらつて身を捨てて人の為に尽くす立派な僧侶を教育しようという念願で建設されたものでありますが、この完成を祝うかのように、身を捨て法の為に海外布教を志された日持上人の御遺品がお歸りになるという慶事がありました。きっと我々の念願が届く前兆であると思います」（みのぶ一月号より）

新図書館の建設に寄せる期待は、宗門だけではなく、山梨県民の集目している所であつて、地元の山梨日日新聞（六十二年十月十日号）には、『お山の図書館・蔵書二十万冊・県内では



昭和63年7月完成が待望される図書館鉄骨組み

設計監督…KK堀池秀人都市・建築研究所

施工…KK東急建設・横浜支店

五階建・延面積2,500平方

トップクラス』と大見出で掲載され、その紹介記事として、日蓮聖人や法華経に関する貴重な資料が数多く、日蓮宗研究の一大拠点となる。オープン後は蔵書を一般にも公開する予定で、大規模な図書館のない静岡県地方にとって文化や教育の発展に役立つと期待を集めている(記事要約)と報道されました。

周囲の期待を集め、法器養成の拠点となる図書館は、鉄筋五階建の近代建築が完成しても図書館としての機能は果せない。第一は利用者の要望に対応できる図書の整理と整備、第二は図書の管理システムの整備、第三には図書館職員の愛書献身の心掛けであろう。図書館には人間に代る機械システムが幾つか導入されますが、結局は人間がセーフティーコントロールの主役であることを念頭に、運営に万善を期せねばならないであります。尚、竣工開館後には、前立正大学長・故坂本幸男博士所蔵本が寄贈される事となっており、図書の充実ばかりでなく極めて貴重な蔵書もあることから、学園を利益する所は莫大であります。既に先年、本学教授故塩田義彦博士所蔵本の寄贈、学頭・故里見泰穂教授蔵書の寄贈と云い、学術研究の核となる蔵書は貴重蔵書として永く学園の宝としていきたい。五月下旬から六月上旬には、世紀の大建築の全容をみる事が出来ましようが、工事完遂に至るまで仏祖三宝の御加護の下に魔障なきこと祈るのみであります。いづれ完成のと

きには、関係各位に御来駕を賜わり、祝賀の式典を挙行することとなりましょう。

(建設委員長・図書館長町田是正誌)

(2) 図書館だより

皆々様の御蔭で新図書館の建築も竣工に向かって着々と進んでおり、その外観を表わし初めましたことは、まことに有難いことであります。

その中に於て今年も図書献本運動に同窓生の各聖、また有縁の方々より御高配と御高志を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

新図書館移動の準備に館員も毎日追われておりますが、何卒これからも「一人一冊」の献本運動に皆々様方の御協力をよろしく切にお願い申し上げます。

昭和六十二年度図書寄贈者御芳名

- 1 波木山円実寺 岩田日成師『日蓮聖人』他三〇七冊。
- 2 谷川寛徳師(魚津市)『仏教哲学辞典』
- 3 谷川寛徳師を通じて金三津三郎様(魚津市)『ホーソン全集』一四〇巻他英語、フランス、ロシア語辞書
- 4 山下清一様(函館市)『日蓮宗布教選書』全二〇巻他三八冊。

- 5 加茂顯静師を通じて青木栄子様(東京)『志賀直哉全集』全五巻他三八冊。

- 6 松本学昭師(身延町)『日蓮書簡集』九冊。

- 7 松本光華(身延町)『蓮華の詞』一〇冊他八冊。

- 8 原光可様(大阪)『日蓮宗の佛法』三冊。他五冊。

- 9 師親会『純粹宗学を求めて』五冊。

- 10 三喜房様『純粹宗学を求めて』二冊。

- 11 笠井麗資(三洋石油社長)『六老僧日持上人宣化出土御遺物図録』五冊。他三冊。

- 12 北川前肇師(東京)『日蓮教学研究』一冊。

- 13 池原鍊昌師(山梨県)『甲斐俳壇と芭蕉の研究』一冊。

- 14 小野文琬師(群馬県)『日蓮にきく』一冊。

- 15 新居日薩和上百遠忌顕彰会『日薩和上百遠忌記念集』五冊。

- 16 木村日審師(青森市)『徳川幕府法制資料集成』一―五巻。

- 17 大石要英師(静岡県)『大田区史』寺社1・2。二冊。

- 18 岩田諦静師(千葉県)『初期唯識思想研究』一冊。

- 19 児島鍊戒師(徳島市)『日本キリスト教歴史大事典』他一冊。

そのほか、原光可様を通じて河野モト様(大阪府)より二万円相当の贈呈を受けております。

ここに献本運動に御高配と御厚志を賜りました諸氏に衷心より御礼を申し上げます。

(3) 「同窓会」本部だより

昭和六十二年年度の本部活動を簡単に報告いたします。

(1)本部役員並全国支部長合同会議(62年10月30日)

会議の当日、和身会(於山本坊・午後四時)との開催とも重なつたので、和身会の会員でもある支部長・本部役員各聖の御参集を得て協議の席がもたれた。(一)松井大周会長挨拶。(二)宮崎英修学頭挨拶。(三)本部会計収支報告。(四)副会長大石要英上人辞任届が提出されるも、全国大会まで案件保留とする。(五)図書館建設について現況報告。(六)各支部長より支部報告(山梨岩田日成師・静岡平岡日静師・東京久本信明師・神奈川小池日応師・大阪牛居一教師・兵庫田中恵敬師・九州中村正彦師・石川中屋教海師・広島長谷川泰鑑師・富山谷川日龍師・三重黒宮教徳師)各支部長より提示された点を二三紹介すれば、(1)六十一年十月発行同窓名簿の誤記・改姓名・脱漏の訂正を要望する。(2)支部会費の徴収と本部納入会費の徹底(一人年額二千円・内千円支部、千円本部へ)(3)毎年度卒業生名簿を支部長宛に送付して欲しい(学事要覧を届けること約束)(4)本部より下記支部大会に出席(九州大会八月二十九日佐賀県嬉野・町田是正幹事出。広島大会十月五日松井大周会長出・北海道地区支部結成大會十二月五日・町田是正幹事出)。(五)北海道全道挙げて支部結成をみたことは、北端の地に祖山の魂が根をおろす第一歩であり、その発展を切に願うものである。(六)卜報・本会常任幹事長

谷川寛慶上人(祥延院日善上人)には昭和六十二年十一月十四日遷化された。師には永年学園で法器養成に当たられ、また社会福祉の仕事にも尽力され、その法功は偉大でありました。謹んで増円妙道を祈ります。

(4) 研究活動報告

(1) 日本印度学仏教学会

第三十八回学会大会は、昭和六十二年六月六日(出)・七日(回)の両日にわたり、当番校大谷大学(京都市)の主催で、同大学を会場に開催された。本学からの発表者とテーマは左の如くであった。

金網集の一考察——金網集(浄土宗見聞上・下)と法華問答正義抄(付浄土宗)について—— 中 條 暁 秀

(2) 日本仏教学会

昭和六十二年年度学会大会は「仏陀観」を共同課題として、十月三日(出)・四日(回)の両日、東北大学(仙台市)を会場にして開催された。本学から上田本昌先生が発表を行なった。

日蓮聖人の仏陀観——身延期の著述を中心として——

上 田 本 昌

(3) 日蓮宗教学研究発表大会

第四十四回日蓮宗教学研究発表大会は十一月二十七日(金)・二十

八日出の両日、日蓮宗々務院を会場として開催された。通常の研究発表の外本年は第四十回の記念大会として、「日蓮教学と生命科学」を総合テーマとして特別記念講演が行なわれた。本学からの発表者は左の六氏であった。

(f) 特別記念講演

法華経における生命観

望月海淑

(g) 通常の発表

日蓮聖人の懺悔観

奥野本洋

『法華玄義』の一研究

若杉見龍

身延山と武田家

林是賢

信への還帰——ヤクシー信仰より大乘仏教へ——

高橋堯昭

宗祖身延入山初期の曼荼羅について

上田本昌

(4) 学内研究会

本年度の学内研究会の発表者とテーマは左の通りであった。

◇七月三日(金)二時

地母信仰の仏教への影響

高橋堯昭

◇一月二十八日(木)三時

新約聖書にみる死と生

町田是正

◇二月二十五日(木)三時

Jñānāśrīmitra の Kāryakāraṇabhāvasiddhi に関して

望月海慈

(5) 仏教文化講座

本年度の「仏教文化講座」(公開)は、十月三日(木・午前九時～十時半)開催された。講師は立正大学教養部の小野文琬先生、テーマは「本妙日臨和上をめぐる」であった。

以上